

【症例報告】

肺病変を欠き右鼠径部および骨盤内
巨大リンパ節腫脹を主病変とする
サルコイドーシスの1例おお い しん じ
大 居 慎 治キーワード：sarcoidosis, extra-thoracic lesion, sarcoid reaction,
hypercalcemia, angiotensin converting enzyme

要 旨

90歳代女性。1か月間に進行する右鼠径部～下腹部の腫瘤と疼痛，右下肢から両下肢へ進行する著明な浮腫を認め受診。診察で同部に腫瘤，両下肢浮腫あり。CTで右鼠径部から骨盤内に最大6cmのリンパ節腫大を認め，肺病変はなし。FDG-PETで同部位に局限した集積を認めた。軽度貧血，LDH・Ca・sIL-2R上昇，ACE正常。悪性リンパ腫などを疑いリンパ節生検を施行し，非乾酪性類上皮細胞肉芽腫を認めサルコイドーシスと診断した。プレドニゾン投与で腫瘤縮小と浮腫改善を認めた。肺病変を伴わず，鼠径部および骨盤内巨大リンパ節腫脹を主病変としたサルコイドーシスは稀である。悪性リンパ腫やその他の悪性腫瘍との鑑別が重要であり，病理組織診断は必須である。

は じ め に

サルコイドーシスは原因不明の全身性肉芽腫性疾患で，両側肺門リンパ節腫脹（bilateral hilar lymphadenopathy: BHL）や肺の網状・結節状陰影などの肺病変，皮膚，眼，関節，心臓，神経系，消化管，骨など多臓器に病変を認めることが知られている。一方で，明らかな肺病変（胸郭内病変）を欠き，他の臓器に病変を形成する例は稀である¹⁾。今回胸郭内病変を認めず，右鼠径部お

よび骨盤内に悪性リンパ腫に似た巨大リンパ節腫脹を主病変とし，両側下肢の高度浮腫を呈したサルコイドーシスの1例を経験したので報告する。

症 例

患者：90歳代，女性（元教員）
主訴：両側下肢の浮腫
現病歴：受診の1ヶ月前から右鼠蹠部・下腹部の腫瘤に気づいた。その後同部位の痛みが出現した。また，右足背からに上行性に悪化する浮腫が出現した。左下肢にも浮腫が出現し，臀部に至るまでの著しい浮腫となって歩行にも支障をきたし，当院救急外来に受診した。身体診察にて右鼠径部・

Shinji OOI

松江赤十字病院 総合診療科

連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200番地

松江赤十字病院